

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な17の開発目標。本稿に書かれた目標は「持続可能な生産消費形態を確保する」。

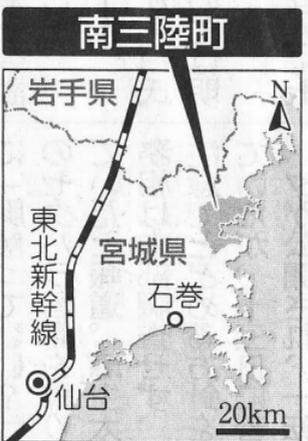
さとすみファーム代表

金藤克也さん



二〇一一年四月に復興支援活動で宮城

県南三陸町に入り、翌年六月に継続的な活動を行うために一般社団法人「さとすみファーム」を設立しました。町内の歌津地区で一四年一月、子どもたちが安心して遊ぶことができる観光牧場として、ヒツジの牧場を開設。カヤック体験や羊毛を使ったオリジナル製品づくりを体験できるほか、バーベキューを楽しんだりできます。南三陸町は高級ワカメの産地と



十頭を出荷予定で、二〇年度には八十頭出荷を目指しています。

これらの取り組みをSDGsの経済成長、環境保護、社会的包摂という三つの側面から考えてみました。

経済的側面としては、羊肉のブランド化で実績を築いた飼料を製造する会社を三月七日に設立。ウシ、ヒツジ、ウマの飼料の製造販売も始めました。

ヒツジ核に地域の再生を

して有名ですが、利用されないまま大量に残されるワカメの芯の処理が地域の課題でした。さとすみファームはこの芯を加工した「わかめ発酵飼料」をヒツジに与え、「南三陸わかめ羊」＝写真Ⅱというブランドを確立しました。一七

年度の飼育頭数は四十五頭で、うち十二頭を出荷。現在は八十三頭まで増えており一八年度中に約三

わかめ発酵飼料は一八年度百二十ト、一九年度は千二百ト製造する予定です。環境的には、このことで、廃棄物（ワカメの芯）を減らすことができました。社会的側面としては、ヒツジから年に一度の贈り物としてウールがあります。紡ぎ手の育成から商品作りの過程で、福祉作業所の入所者や高齢者、ひきこもり児童らに関わり、地域のコミュニティ再生に向けて多くの人を紡ぎ合わせる事ができます。

私たちはヒツジを核として、新しい産業や雇用、コミュニティを創出します。そして、いつも笑いの絶えない楽しい場所、豊かで穏やかで持続可能な地域社会を多くの世代の人々とともに築けるよう頑張っています。



※この連載は、NPO法人JKSKによる『結核プロジェクト』の協力を得ています